

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

平成31年 3月 6日 (水)

2 確認箇所

5・6号機サプレッションプール水サージタンク

3 確認項目

5・6号機サプレッションプール水サージタンクの現況

4 確認結果の概要

5・6号機サプレッションプール水サージタンク（以下、「SPT」という。）は、二重構造（外側は雨仕舞）になっており、タンク内部には東日本大震災前にプラント保有水^{*}が貯留されていたが、震災による津波等の影響により海水や雨水が浸入し、現在は、タンク内部にプラント保有水に海水が混入した水、雨仕舞内部とタンク横に附属して設置されているポンプ室には海水と雨水が混入した水が貯留されている。

今年1月の東京電力の分析の結果、これらの貯留水には、フォールアウト由来と考えられる放射性物質が含まれていることが確認されており、今後、貯留水の移送先や処理方法等が検討されることになっていることから、SPTの現況を確認した。

※「プラント保有水」：プラントで使用した水を一度浄化し、再利用するための水や廃棄物処理系で保管しているドレン水等であり、震災以降炉注水等で発生する高濃度の建屋滞留水等とは異なる。

- ・ SPT外側（雨仕舞）の側面は、津波の影響により変形しており腐食が見られた。（写真1）
- ・ SPT外側のコンクリート堰の壁面に、ひび等の損傷が見られたが、目視した限りでは、壁面からの滲み等は確認されなかった。（写真2）
- ・ 東京電力によると、これまでタンク内部の水位に変動はなく、タンク内部と雨仕舞内部に水位差があることから、タンクからの漏えいはないと判断しているとのことであった。



(写真1)
(北側から撮影)



(写真2)
(東側から撮影)

- 5 プラント関連パラメータ等の確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。